

一三一八番

底清み 沈ける玉を 見まく欲り 千度そ告りし
潜きする海人は

一三一九番

大海の 水底照らし 沈く玉 齋ひて取らむ
風な吹きそね

一三二〇番

水底に 沈く白玉 誰が故に 心尽くして 我が
思はなくに

一三二一番

世の中は 常かくのみか 結びてし 白玉の緒の
絶ゆるらく思へば